

家庭教育通信

Vol.

16

監 修：白井市家庭教育講座講師 富澤 裕子

発行元：白井市教育委員会

(教育部生涯学習課 492-1111)

「家庭教育通信」は、子ども達のすこやかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

「3分で変わる親子関係」

白里家は、中学1年の愛ちゃん、小学5年の仁くん、小学1年の恵ちゃんの3人姉弟です。

中学生の愛ちゃんは、バレーボール部に入って毎日元気に学校に通っています。ただ、平日は塾があり、休日も部活があって、なかなか家族と一緒に夕飯を食べられません。

仁くんは、無口なほうです。ゲームが大好きで、ゲームをしているときに声をかけると、返事はしますが話を聞いていないことがあります。

末っ子の恵ちゃんは甘えん坊で、夜はママの髪を触らないとなかなか寝つけません。

パパは、通勤に1時間半もかかるので帰りはいつも遅く、ママは夕方から食事の支度や愛ちゃんの迎え、お風呂の準備や仁くんと恵ちゃんの翌日の準備などで大忙しです。ですから、時計が動くごとにママのイライラは募っていきます。『早くしなさい!』『お風呂に入りなさい!』『宿題は?お手紙は?』『仁、ゲームはやめなさい!』『愛、勉強しなくていいの?テストあるんでしょ?』などなど…。ママのイライラが始まると『うるさいな~』と愛ちゃんは部屋へ行ってしまいます。

ママは、家族が寝静まると、どっと疲れを感じます。家事や育児に忙しく追われるうちに、家族と心がすれ違っているようで、とても悲しくなります。冷静に考えると、ささいなことに腹を立てている自分も嫌になります。

何とかしたいと思っているときに、ママは市主催の子育てステップアップ講座があることを知りました。早速参加し、効果的な子どもとのコミュニケーションのとり方を知りました。そのひとつが「親は子ども一人ひとりの話を3分間黙って聞くこと」でした。

ママは、久しぶりに3人の子どもと夕食をとっている時に『ママ、お話の聞き方の勉強をしてきたの。上手になりたいから、3分話をしてくれる?ママ、何も言わないで聞くから。』と思いつ



て話してみました。喜んでくれたのは、恵ちゃんだけでした。愛ちゃんには『話すことない。』とそっけなくかわされ、仁くんには『何で？何のために？』と問い詰められてしまいました。その夜は、枕元にキッチンタイマーをセットして、恵ちゃんの話の話を聞きました。恵ちゃんは、給食の献立について話した後は『えっとね～、うんとね～』とニコニコしながら、ママのほっぺや髪を触わるだけでした。ママとしては物足りなかったのですが、次の日からは恵ちゃんから『3分をやりたい』と言って、好きなことや自分の失敗まで話をしてくれるようになりました。ママは、日に日に恵ちゃんの寝つきが早くなってきたのに驚きました。

そして5日目。仁くんが『オレも3分』と言って、ママに話し始めました。ゲームがクリアできなくて悔しかったことから始まり、パパが釣りに行く約束を先延ばしにしてしまったことまで、不平不満を一気に話しました。ママは、びっくりしました。パパが釣りを延期した時、仁くんはがっかりした様子も見せず、ただ『わかった』と言ってゲームをしていたのですから。仁くんの話の聞きながら、ママは仁くんを慰めたくったりパパを弁護したくったりしましたが「意識して」黙ってうなずきながら聞きました。次の日も、仁くんは釣りの話をしてくれました。釣りに行ってやりたいことをひとしきり話すと『明日、パパに夏休みには連れて行ってと頼んでみるよ、ママありがと。おやすみ。』と言って眠りました。仁くんから『ありがと』と言われたのは久しぶりです。いつも無口で感情をめったに出さない仁くんの想いを知って、ママは仁くんのことが愛おしくなりました。

翌日、塾のお迎えの車の中で、愛ちゃんが『聞いて...』と言って話し始めました。部活で同級生同士が対立し、そのうちの1人が辞めようとしているのを、愛ちゃんはもう1ヶ月も相談にのって引きとめていたのです。自宅近くまで来ると、愛ちゃんは『ママと2人だけで話したい』と言い出しました。留守番をしている下の2人が気になりましたが、家の近くに車を止めて、愛ちゃんの話の話を聞き続けました。結論は出ませんでした。20分も経った頃に愛ちゃんが『ああ、すっきりした。お腹すいたよ、家に帰ろう。』と言うと、愛ちゃんの曇っていた顔はスッキリしたように笑顔になりました。家に帰ると、愛ちゃんのご飯を食べながら学校での出来事を仁くんに話しています。家の中の空気が、柔らかく穏やかになりました。

ママは、子どもたちに平等に接したいと思いながら『忙しくて』を言い訳にして、どの子の話もしっかり聞いていなかったことに気付きました。子どもたちは、話をするのが大好きです。ママは、子どもたちは今まで話をしなかったのではなく、話の途中で親が意見を言ったり提案をしたりしてしまうから、子供は話せなくなってしまおうと実感しました。

子どもが話したいことを安心して思いのままに話すことで、親は子どもの心を知ることができます。その積み重ねで子どもの小さな変化にも親は気づき、必要であれば援助していくこともできます。短いけれど豊かなときです。この夏、3分間聞き役になってみませんか。

県内の相談場所

- ・ 家庭教育の悩みや不安について相談するには、

白井市教育委員会教育部教育センター室	4 9 2 - 2 3 0 1
県子どもと親のサポートセンター	0 1 2 0 - 4 1 5 - 4 4 6
県総合教育センター特別支援教育部	0 4 3 - 2 2 7 - 1 1 6 6

(障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)
- ・ 養育上の悩みや非行・虐待など、児童の福祉について相談するには、

中央児童相談所(子ども家庭110番)	0 4 3 - 2 5 3 - 4 1 0 1
白井市家庭児童相談室	4 9 7 - 3 4 7 7
社会福祉法人 千葉いのちの電話	0 4 3 - 2 2 7 - 3 9 0 0
- ・ 子どもの非行などについて相談するには、

千葉県警少年センター(ヤングテレホン)	0 1 2 0 - 7 8 3 4 9 7
---------------------	-----------------------